



国鉄新潟

NO. 644
発行
08・10月10日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

拡大行動から 分會活性化へ

職場活動の報告

国労東日本本部第二十二回定期大会が、『ウエルシテイ湯河原』で九月十二日～十三日に開催されました。青年部の特別発言や代議員など全体で二十九名から発言がありました。発言内容は、職場の実態や分會活動の報告など具体的な実践報告がありました。



ひとり一人 意識が高まる

発言内容は、組織拡大の報告や拡大行動を取り組むことで分會が活性化され、ひとり一人の意識が高まったこと。

一括和解以降の職場の状況や昇進試験の結果報告や会社側の対応や他労組の動向など報告があり、各職場によって状況が異なっているが総体的に「人事に関わることについては前と変化が無い」という報告が多かった。他労組との格差が続いている状況から工ア本部は「あっせん申請」を行った。設備メンテナンス業務の「まるなげ」になっっている。要員不足が発生し現場は厳しい状況。若手への技術継承ができていない。技術力低下が深刻な問題になっている。



国労東日本本部 第22回定期大会

「JR不採用事件」全国大会で全体が確認したとおり現状を生かして早期解決 政治解決をめざす。四者四団体の団結を堅持し具体的行動を進めていく。一〇・二四中央集會の成功や大衆行動 国会要請 自治体意見書採択への取り組みなど地方から中央へ闘いを展開していく。

など職場の具体的な問題や実践報告が多く発言されました。

拡大の条件が整ってきただ

青年部特別発言

青年部から二日目の冒頭に特別発言がありました。組織拡大について、北海道など新採者の拡大があった。今までの運動の成果だ。拡大条件が整ってきた。



本部青年部と職場オルグを展開その運動が分會活動を強化している。自分の意志で国労を選択し加入した。国労組合員は親切で、東労組は威圧的だ。国労は仲間意識が強い、青年に話しかけてくれる。守ってもらったために国労に加入したわけではない。生き方に共感して加入を決意した。国労が仕事など職場を支えてきたことを話してください。青年労働者の不満を聞きその状況を変えていく運動を進めていく。組織拡大は国労の運動発展、継承していくための重要だと発言されました。



直江津支部 酒井書記長



大会2日目～直江津支部の酒井書記長は組織拡大についての報告行いました。

竹内さんと4年間の付き合い国労加入を訴えてきたこと。地域間から戻ってきた竹内さんは、その後国労加入を決意しました。分會で集會を開催し全体で意思統一を図り拡大行動を取り組んできました。

組織拡大は、2～3年以上の行動として考えていかなければならない。など具体的な報告がありました。

並行在来線の取り組みについて、2014年北陸新幹線開業に伴って信越線が第3セクター化へ、第3セクターは経営が困難だ。国労が三市連絡會を発足し地域住民・利用者・など多くの人たちを運動を展開している。

など報告がありました。



JR東日本ユニオンから 48歳(車掌) 国労加入

9月17日付、新潟地本でJR東日本ユニオンから国労加入がありました。車掌で48歳です。加入の動機は『国労は以前から言いたいことが言える組合と思っていた』話されていました。本人の希望で氏名・職場名は公表できませんが後日、詳細にわたって紹介します。

地本 組織部

優「機
秀「国鉄新潟」
賞 関紙表彰



今年も昨年から表彰対象が変更になり、地本機関紙についても年間30号以上発行で、機関紙表彰されます。今年も『国鉄新潟』は年間32号発行することが出来ました。

昨年に続き、2回目の『優秀賞』となりました。来年度も30号以上を目指しがambります。多くの方々の御支援・御協力に感謝いたします。

地本 教宣部

10・24 (金) 中央大集会



10月24日 日比谷野外音楽堂